

会議録（１）

会議の名称	令和７年度 第４回飯能市総合振興計画審議会			
開催日時	令和７年１０月３１日（金） 開会 午後１時３０分 閉会 午後２時３３分			
開催場所	飯能市役所本庁舎３階 ３０１会議室			
議長氏名	熊田 俊郎			
出席委員	熊田 俊郎	吉田 行男	中里 忠夫	小谷野 庄司
	大河原 章吉	関口 正博	井上 久美子	大野 康
	双木 和宏	浅野 正敏	宮下 清栄	荒井 利夫
	加藤 巳佐子	齋藤 龍一		
欠席委員	なし			
説明者の 職 氏 名	企画課主幹 企画課主任		遠藤 延人 馬場 俊一	
傍聴者の数	１名			
会議次第	別紙のとおり			
配布資料	別紙のとおり			
事務局職員 職 氏 名	企画総務部長 企画総務部参事兼企画課長 企画課主幹 企画課主任 企画課主事		金子 智彦 奥 孝明 遠藤 延人 馬場 俊一 木寄 彩花	

会議録（２）

議事録の概要〈経過〉・決定事項

議事

- （１）第６次飯能市総合振興計画基本構想（案）について（答申）（公開）
配付資料について、事務局が説明し、審議を行った。

会議録（３）

発言者	発言内容
会長	それでは、議事に入らせていただきます。 議事「（１）第６次飯能市総合振興計画基本構想（案）について（答申）」を議題といたします。 本日の会議は、予定では最終回となっており、飯能市長からの諮問に対する審議会としての答申の取りまとめを行いたいと思います。 はじめに、前回までの会議で委員の皆様から出されました意見等をもとに、事務局で基本構想（案）の修正を行っておりますので、その内容について説明いただきたいと思います。次いで、答申書（案）の内容について説明いただき、最後に全体を通して委員の皆様一人一人からご意見をいただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。 それでは配付資料について事務局から説明をお願いします。
企画課主任	（配付資料 各意見反映後の基本構想（案）、意見対応表、意見募集（パブリックコメント）の結果を説明）
会長	説明は以上です。 ここまでの内容で委員の皆様から何かご意見等はございますか。 （なし） 続きまして、配付資料の答申書（案）につきまして、事務局からご説明をお願いいたします。
企画課主幹	（配付資料 答申書（案）を説明）
会長	説明は以上です。 ここまでの内容で委員の皆様から何かご意見等はございますか。最後の機会ですので、何か言い残していたことがあればお願いします。 （なし） それでは本日のご意見も踏まえまして、答申書の成案を事務局で作成していただきたいと思います。

会長	なお、答申書につきましては、後日私の方で内容を確認し、市長に答申書としてお渡ししたいと思っております。ご異議ございませんでしょうか。 (なしの声あり) このようにしたいと思います。よろしくお願いします。
会長	それでは、最後に全体を通しまして、委員の皆様から感想などを含めたご意見をいただければと思います。名簿の順番でお願いいたします。
委員	きれいに細かく、いろいろな方面から良くできているのではないかなと思いました。どんどん皆様と良いまちになっていくといいなという感想でございます。基本構想（案）に関しては良いのではないかなと思います。
会長	次の方、お願いします。
委員	私は観光について重点的に見て、皆さんの意見を聞いていました。この答申書（案）の2の方に「歴史と自然と文化」というのがありましたが、4年前に奥むさし飯能観光協会もDMOを取得しまして、現在、埼玉県では5市だけが取得しています。それを中心にしてメツァや天覧山麓のOH!!!など、今の自然や文化や歴史をどんどん洗い出しまして、DMOの方で観光庁の仕事をやりながら進めていますが、なかなか地域の資源はあるが、それを活用していくということは難しく、これから皆さんから出た意見等も参考にして、頑張っていきたいなと思っています。
会長	次の方、お願いします。
委員	山間部があつたり、市街地があつたり、農村地があつたり、色々な顔を見せているのが飯能かなと私は思っています。その中でこのような構想案を作るのはすごく大変だったんだろうなと正直思いました。これから先も、いろんな顔を見せていく飯能を盛り上げていけたら良いなと思います。
会長	次の方、お願いします。
委員	私は地域の林産業に従事する者として、まちづくりの基本姿勢の中

で、森林資源の循環利用という話をさせていただいて、そこを具体的に取り入れていただいたということで、飯能市の地図を見ても、市域の約75%が森林地域でありますし、そこは人と自然、未来につながる森林文化都市につながっていくのだらうと思っております。そういった意味で、やはり、具体的に地域の産業がもう少し活発になれば良いなという思いもあります。それに併せて針広混交林化を進めるということですが、現在の1つの流れとして、環境問題対策として広葉樹を植えていこうという取組がありますが、一方で学説では、針葉樹をしっかりと整備をしたところだと、例えば水の涵養などへの効果は針葉樹と広葉樹ではあまり違いがないという報告もあります。そういった意味では、やはり地域の森林をしっかりと管理していくということも大事だらうと思います。

全体的に見まして、非常にまとまって計画が策定されているなと感じたところでございます。

会長

次の方、お願いします。

委員

基本構想（案）について、大分ご苦労して、しっかりまとめられているなと思っております。冒頭にある市民憲章を改めて読ませていただいて、これが原点かなと思います。こういった計画がどこかで立ち止まったら、市民憲章を見て進んでいくことが大事なのかなと感じました。

私はスポーツ関係の活動をしておりますが、スポーツの方からも応援できる場所をしっかりと見つけたいなと思います。

会長

次の方、お願いします。

委員

この会に出席していろいろ学べたことにとても感謝しております。事務局の方から事前に説明をいただいたときに、もう少しこの審議会についての内容、どのように進めていくのか、どのような意見を私から引き出したいのかというところをきちんと聞いて、この会議に臨むべきだったなとすごく反省しております。

民生委員としては山間部と市街地の違い、やはり生活圏が非常に違いますので、そういうところの支援の仕方などを日頃から考えておりますが、今回の会議に出席させていただいて、基本構想（案）の内容がとてもよくできていて、私には全然思いつかないなと思いました。森林文化都市を基本構想の中心に据えていると思いますが、森林を大事にするということがどういうことなのか、全国的にもですが、林業が不振です。飯能市内の方から伺いましたが、畑、農業をやる方たちも随分減ってしまって苦労しているとか、そういったこともあります。

会長

ので、都心から1時間余りで、本当に豊富な自然に触れることができる飯能ですが、これから先、こうした課題をどうしていくのかを改めて高齢化とともに考えさせられました。

次の方、お願いします。

委員

基本構想（案）のまちづくりの基本姿勢（3）未来を見据えた持続可能な仕組みをつくるの部分に、「本市の財政状況の見通しが厳しい状況にあっても」という文言があり、このような状況で今回の第6次計画を策定することは、偶然ではなく、良いタイミングだなと感じています。私たちの審議会の議論が、本市の財政状況が厳しいという状況を何とかするきっかけの1つになるのではないかと思います。

答申書（案）の1番目の「策定過程において市民と職員が一緒に意見を交換し合うなど参加・協働のプロセスを確保した点は」というような内容がありますが、今までも市民の声をよく聞くことや、市議会でも市民の代表である議員方から意見を聞くこともあったと思います。しかし、もう一步踏み込んで、若い市民や市役所職員の方々にまちづくりを考えるワークショップを行うことで、若い人もそうでない人も、皆が市が良くなるために一歩前に踏み出して発言していいんだと、自分も参画できるんだという姿勢を示して、今後10年間の飯能市がこうなったら良いという絵を描けたというのは、1つの大きな功績と評価して良いと思います。

行政の役割とは、住民の方にここに住んでいても良いですよ、住み続けて良いですよというお墨付きを与えることだと私は考えています。現在、公共施設やインフラなど色々なものが耐用年数を過ぎていて、以前のものと同じものを作るというのは無理な時代ということは承知していますが、それでも最低限そこに住んでも良いと言える整備も必要かなと思います。

まちづくりの基本姿勢で針広混交林化の内容を加えていただけて嬉しかったです。山の方は夏は日当たりが良く、せせらぎがあるため、都会から土地を買って家を建てて引っ越して来る方が結構いますが、10年、20年と経てば山の木はどんどん大きくなりますので、冬になると午後1時を過ぎると全然日が当たらないということが往々にしてあります。杉や檜のよく育つ大事な場所は林業のために残す一方で、ここから見る大河原の山がとてもきれいなのは、ある部分が広葉樹の山だからだと思います。昔の人は尾根のところには杉、檜を植えないで広葉樹にしたという話をよく聞きます。尾根のところに杉、檜があると、どんどん大きくなってしまい、日が当たらなくなってしまいます。それを尾根のところを広葉樹にすると、冬には葉っぱが落ち

て、腐葉土などの栄養が下の杉、檜を育てるだとか、登山客が山登りをしたときに、暗い山の中を歩くのではなくて、遠くまでよく見えるようになるということで、麓民にとっても、登山客にとっても、それから山作りをする人にとっても、良いことだと思います。以前そのような提案をしたことがあります、私有財産や山のことで色々な制限があつて、なかなか難しいことだと承知しております。しかし、そのような取組が山間地域に住んでいても良いんですよという発信になると思いますし、山に暮らす人々の冬の日差しがしっかりと入るような環境ということからも、どうか実現できると良いなと思いました。

また、まちなかも山間地域も随分空き家がありますし、商店とかもですが、山も持ち主がなかなか手入れができないなど、放置されている財産を市が積極的に公有化する動きも他ではあります。飯能も、山もあれば、里もあれば色々な地域性があるので、ぜひそのようなこともまちづくりの将来都市像にある、好循環のイメージ図のように回せるアイデアを盛り込んでいけるような10年になると、きっとこの審議会での議論が意義あるものになると思います、10年後が楽しみです。そういうことをぜひ強調してもらって、特に若い人が意見を言っても良いという姿勢になって、自分たちの計画ですよと誇れるような計画になったということは評価して良いと思います。

会長

次の方、お願いします。

委員

私は普段から福祉分野でまちづくりと人づくりに関わる仕事をしておりますが、まちづくりの基本目標の5つの目標がある中で、「ひとづくり」や「あんしんづくり」、「つながりづくり」という内容は、全て福祉のまちづくりと共通しており、私たちも、地域の皆さんと地域の福祉を進めていくということをしつかりとやっていかなければいけないと改めて思いました。

便利で、生活しやすいというところもあると思いますが、飯能市は、本当に人が非常に良い地域だなと、普段の活動をしている中で感じます。また、人同士がつながっているというのも、飯能市は他市に比べて根強く、人とのつながりがありますので、新たな若い世代も含めて、人のつながりを大切にすることや、生活しやすい良い飯能にしていこうという気持ちを持つ人づくりを、福祉の方で真剣に取り組んでいきたいと思っています。

一度市外へ出てしまつて、都内で生活をするけれども結婚を機に自分が育った飯能に戻ってきた方を何人か知っていますし、その方々からはやはり飯能の人が良いという話もよく聞かれます。私たちはもっとソフトの部分で、人づくりという部分をしっかりと取り組んで、まちづくりを進めていきたいと、審議会に出させていただいて改めて感じ

	ました。
会長	次の方、お願いします。
委員	今回の審議会に参加させていただいて、色々な関係の方々が意見を出されたのでとても良いなと私は思いました。はんのう市民環境会議では自然環境部会と地球環境部会、生活環境部会、環境教育部会、この4つの部会でまちづくりを進めているところですが、当初の基本構想（案）を見たときに「歴史」「文化」という言葉がなかったのでびっくりしました。それを今回、「歴史と自然と文化」という言葉がはっきりと反映されていて、また、中身についても意見した内容を細かく盛り込んでいただけてとても嬉しく思っております。 答申書（案）そのものは短い文章で考えなければならないため、仕方がないと思いますが、その中身がしっかりとこの基本構想（案）に盛り込まれているので、大丈夫だと感じます。
会長	次の方、お願いします。
委員	私は30年前、南台第二や大河原をどうするか協議する公団の委員として参加したことから飯能市と付き合うようになりました。その時は市外に住んでいましたが、現在では住民になり、外から見た時と我がまちとして見た時では全然見方が違いますし、力の入れ方も違うため、それから多少都市計画の勉強をしていたこともあり、色々な審議会や委員会に参加させていただいています。この審議会も3回目です。 一番びっくりしたことは、第1回の説明で総合振興計画の策定が法定ではなくなったと聞いたことです。 また、飯能市の出生率が1を切ったことにも驚いています。出生率が1を切るとは余程の都会かと思っていましたが、飯能でも切ってしまう。それはとてもショックなことでした。これから簡単にはいきませんが、飯能は人口7万人台ですが、交流人口は約400万人います。そういった市町村はなかなかないと思いますので、ぜひ観光協会や商工会議所の方々などに頑張ってください、これをうまく使えばいくらでも人口10万以上のまちになると思いますので、そこだけは飯能の良いところかなと思ってます。
会長	次の方、お願いします。
委員	飯能市は134自治会あり、13支部に分かれております。自治会長全員が一堂に集まることはなかなかないのですが、4回の審議会で

	学んだ色々なことやこの計画を自治会連合会の会議で各自治会長に知ってもらおうと思います。また、これを参考にして、引き続き明るく、仲良く、楽しく、そして安全に、自治会運営をしていきたいと思っております。
会長	次の方、お願いします。
委員	審議会に出席する前にしっかりと飯能市の総合振興計画というのはどのような内容なのかということや、審議会の役割として基本構想についてどんな審議をするのかというところの予習が必要だったと反省しております。そのため、全体を見て、どの水準で意見を述べたら良いのかというのが本当に毎回迷いました。出席できなかった回に関しては、紙で意見を出させていただきましたが、あまり具体の話になると基本構想の内容ではないと思いますし、気になるのは、やはり基本構想が基本計画にどう落ちていって、さらに最上位計画であるこの総合振興計画が他の行政計画にもっと具体的に落ちていくと思うのですが、そのつながりというのは非常に気になりました。 私は飯能に住んだことがないのですが、基本構想は非常によくできていて、答申書にもアイデンティティという言葉が書かれているように、飯能市民の方々や市役所の人たちも含めて、何を大事にしてるのかというのがすごく伝わる内容だったなと思いました。 大事なのは市民が読んで分かるということと、市民と共同参画で進めるというその視点で、ぜひ基本計画につなげていってほしいなというふうに期待しております。
会長	次の方、お願いします。
委員	基本構想に関しては、皆様方からのご意見を聞いて、これ以上はありません。これは市の基本構想として素晴らしい内容だと思いますが、一般の我々のような団体が、カウンターパートとして飯能市を捉えたときに、それぞれの団体の指針と基本構想や基本計画、実施計画が同じ方向を向いているかがすごく大事だと思います。各団体の、自分たちはこれがやりたいということに対して、市の向いている方向がおおよそ一緒なら良いのか、それともほぼ同じ方向を向いていないといけないのかということが、おそらく10年後の結果にかなり関わってくると思います。 各団体が望む結果と、市が望む結果には絶対に差異が生まれます。どの団体でも「飯能市のために」という言葉を使うと思うので、この総合振興計画がしっかりと市民の方や団体の方に伝わるような制度、仕組みのようなものがあると良いのかなと思います。なぜなら、今回1

0年前の第5次計画を読んだのですが、自分が活動している間に、市の方針としてこんなことを考えていたというのがどこからも伝わってきませんでした。実際にインターネットで調べてみても、飯能市はどうしたのかということはたくさん出てくる中で、総合振興計画が一番目にヒットするべきではないのかなと思います。これが色々な課が出している個別計画においても、何をベースに自分たちが動いていくのかということがしっかり定められるものになるとより良いのかなと感じました。

ぜひ今回そういった感じで動いてもらって、また、連携できると良いなと思いますし、何よりも今回自分が参加できたので、会議所としてもこの計画書を見ながら行動ができるようになると思いました。

皆様ありがとうございました。最後に私からまとめとして、どういうことを考えていたのかを話したいと思います。

総合振興計画というのは市政全般に関わるものです。市の業務というのはもう裁量の余地のないようなものや、学校であるとか上下水道とか、ある程度枠がはめられているもの、それから地方創生が言われてからかと思いますが、かなり裁量の余地の多いようなもののウェイトも上がってきているのかなという印象を持っております。それを全部含めた総合振興計画というのは大変難しいものではありますが、そういう意味では、市の基本的な方針のようなものを皆様方と審議できたことは大変良かったなと思っております。

私自身どのようなまちになって欲しいのかと言いますと、人口はもちろん大事なことです、それ以上に飯能が自立した都市であってほしいと思います。もともと飯能というのは非常に中心性の高い自立した都市だったのですが、その後東京の宅地化圧力にさらされ、被害者の部分もかなりあったと思います。その時に飯能はどうしたら良いかというような対応に追われていたような側面があったのではないかと思います。それが急に都心回帰ということになり、引いていき、そのことをマイナスと考える方もいるかもしれません。しかし、自立的な都市というのは、地元雇用があり、それでちゃんと生活が循環しているというもので、ただ単に住民の数だけというわけではなく、地域で生活が回ってこそその人口だと思います。そういう意味では飯能は非常にポテンシャルのあるまちであり、そういうポテンシャルを生かしたまちづくりが十分できるのではないかと思います。

なぜそのようなことを考えるようになったかという、仕事柄日本各地の色々な都市へ行って話を聞く機会があるのですが、ある時非常にショックを受けたことがありまして、香川県の高松市に高松丸亀町商店街という非常に大きな商店街があるのですが、それが成功例としてマスコミで取り上げられていました。その話を聞きに行きましたと

会長	ころ、成功とは森ビルグループが東京から資本を持ってきたというもので、そうすると四国中から、東京に行かなくても高松に行けば良いということで人が集まってくるため成功だということです。確かに再開発で元々いた人たちはちゃんと賃料をもらいますし、誰も困ってはいないのですけれども、これが成功なのかなという思いを持ちました。 それで飯能を見てみますと、飯能は地元のものがまだ生き残っていて、色々なポテンシャルがあつて、これを生かしたら何かできるのではないかと思っております。先ほど祭りの話が出ましたが、川越にしても飯能にしても祭りをやっているところは外の資本のデパートが入っていないなと思いました。地元の力で自立して、そこそこの雇用もあつて、東京に行くのも便利だし、そういう意味では非常に良い所だと思います。 基本構想というのは非常に抽象的ですが、問題はこれからどうやって具体化していくかということだと思います。この間、若い職員の方といろいろと話をさせていただく機会があつて、結構捨てたものではないなという気になってまいりまして、この計画を具体化していくに当たっては、特に企画課の方々だけではなく、他の部署も含めて若い方々の力も発揮し、より自立的な良いまちにしていく元手にしていただけたらありがたいなという印象を持っています。 それでは、議事（１）につきましては以上といたします。 以上をもちまして本日の議事は全て終了しました。 議事が終了いたしましたので、傍聴者の皆様方におかれましては、ご退出くださいますようお願いいたします。 （傍聴者退出） それでは議事はすべて終了しましたので、議長の任を降ろさせていただきます。委員の皆様におかれましては、４回に渡りましてご協力ありがとうございました。
議事のでん末・概要を記載し、その相違ないことを証するためここに署名します。 令和 年 月 日 議長の署名 _____	